

特別展
「マダガスカル霧の森のくらし」

会期 6月11日(火) まで
会場 特別展示館1階

◆関連イベント

「ワークショップ(要観覧料)」

「ザフィマニリの家壁文様を彫る」
展示場に用意した木材にザフィマニリの家壁文様を彫りすすめて大きな家壁をつくる。

「ザフィマニリの文様を編もう」
ザフィマニリでつくられるカゴや帽子・敷物に編まれている文様を編んでみよう。

※以上は毎日開催、当日受付、参加無料

「ザフィマニリの敷物を編もう」
マダガスカルから持ち帰った草をたたいて平にして、敷物を編もう。

日時 6月11日(火) 14時～16時30分

※当日受付、参加無料

◆みんなくウィークエンド・サロン

詳細は、本誌24ページをご覧ください。

企画展

「アリン—The Soul of Korea」

韓国国立民俗博物館で2012年に開催された「アリン展」が世界を巡回します。その最初の展示を大阪にある本館で開催します。

会場 国立民族学博物館 講堂

時間 13時30分～15時(13時開場)

定員 450名(当日先着順)

参加費 無料(展示をご覧になる方は、観覧料が必要です)

みんなくセミナー

第421回 6月15日(土)

「新日本の文化展示関連」

日本の漁業を考える

講師 日高真吾(国立民族学博物館准教授)

川島秀一(東北大学教授)



網の補修

日本の文化展示場はこのたび新しく生まれ変わりました。このなかで、「日々のくらし」では、里、海、山で営まれるくらしや生業を展示しています。このセミナーでは、漁業について考えたいと思います。

第422回 7月20日(土)

「新日本の文化展示関連」

色を創る音で伝える心に触れる「瞽女がみた風景」

講師 広瀬浩二郎(国立民族学博物館准教授)

瞽女とは、三味線を携え全国各地を旅した盲目の女性芸能者です。21世紀の今日、瞽女は消え、その存在を知る人も少なくなりました。視覚優位の現代社会にあつて、瞽女文化はどんな意味を持つのでしょうか。瞽女唄の録音資料を紹介しつつ、色・音・心をキーワードに、瞽女文化の可能性を考えます。



昭和40年代 新潟県・高田の町中を歩く瞽女(写真提供:上越紙文化振興課)

会期 6月11日(火) まで
会場 企画展示場B

「アマゾンの生き物文化」

野生のサルや鳥などをペットにして飼い慣らすなど、地球最大の熱帯林を持つアマゾンの生き物と人のかかわりを紹介します。

会期 8月13日(火) まで

会場 企画展示場A

◆関連イベント

「ワークショップ」

「夏のアマゾン探検隊」

「フィールドワークに挑戦!」

夏の自由研究はこれで解決!企画展「アマゾンの生き物文化」の展示場を熱帯雨林に見立てて探検し、フィールドワークに挑戦します。

日時 7月26日(金) 10時30分～16時

(受付10時から)

対象 小学4年生～6年生

※事前申込制(先着20名)、参加無料

申し込み・お問い合わせ先

情報企画課「夏のごもワークショップ」係
workshop@dc.minpaku.ac.jp

「世界のニッポン、みんなのニッポン」

夏は秋のみんなくフォーラム2013

新しくなった日本の文化展示「祭りと芸能」

「日々のくらし」を広く知っていただくため、6月から11月までの期間に、展示のテーマに関連した様々なイベントを開催します。

◆関連イベント

「体験プログラム」

「瞽女文化にさわる」

盲目の旅人である瞽女の歴史や役割について、秋山郷の復元民家内で実際に資料にさわ

り、瞽女唄を聴くことにより理解を深めます。

日時 6月22日(土)、7月27日(土)

13時30分～14時30分

15時～16時(受付13時から)

会場 日本の文化展示場秋山郷の復元民家内

※当日先着順、各回定員8名

参加無料(要観覧料)

みんなく映画会

民族誌映画制作の方法論の開拓にとりくむ本館川瀬惣助教による、エチオピアの音楽や宗教、子供たちをテーマにした3本の映像を上映します。

「文化の記録と映像表現」

日時 6月16日(日) 13時30分～16時

(開場13時)

会場 講堂(先着450名)

※申込不要、参加無料

※当日10時から講堂入口にて整理券を配布

音楽の祭日2013 in みんなく

1982年にフランスで、夏至の日にみんなく音楽を奏しむ「音楽の祭典」がはじまりました。みんなくでも、世界のさまざまな楽器を使って「音楽の祭日」を祝います。

日時 6月30日(日) 10時15分～16時45分

会場 特別展示館1階および

本館1階エントランスホール

※申込不要、参加無料(当日は無料観覧料です)

お問い合わせ先

情報企画課 音楽の祭日担当
電話 06-6878-8553

●小長谷教授が紫綬褒章受章

4月29日、本館民族社会研究部小長谷有紀教授が紫綬褒章を受章しました。

●佐々木高明先生をしのぶ会

4月4日に逝去された元館長佐々木高明先生をしのびます。

日時 6月12日(水)

13時30分～15時30分 献花

会場 国立民族学博物館

なお、14時30分から石毛直道(国立民族学博物館 名誉教授、佐藤洋一郎(総合地球環境学研究所副所長・教授、松山利夫(国立民族学博物館 名誉教授)の先生方による、佐々木先生の人と学問をふりかえる鼎談を開催します。

また、当日は、佐々木先生の関連映像・写真資料を公開します。

友の会

友の会講演会(大阪)

会場 国立民族学博物館 第5セミナー室

定員 96名(当日先着順、会員証提示)

第421回 7月6日(土) 14時～15時

「新日本の文化展示関連」

「動物との根比べ」

講師 野林厚志(国立民族学博物館教授)

狩猟用の罫は、身近な素材を利用して誰でも作ることができ、サイズや作動する仕組みを千差万別に変えることができます。さらに興味深いのは、この知恵の継承が伝播論では説明できず、発明の時空間が多様な点です。リニエアルした日本の文化の展示場にある、現代の日本の罫をてがかりに、罫の進化を考えてみましょう。

第422回 8月3日(土) 14時～15時

「新日本の文化展示関連」

日本の森とミツバチと人

講師 池谷和信(国立民族学博物館教授)

東京講演会

会場 モンベル渋谷店5Fサロンの

定員 70名(要申込) ※今回は一般の方も参加可能です。

第106回 6月30日(日) 14時～15時30分

トウバ人たちの住むところ——21世紀の「探検」談

講師 小長谷有紀(国立民族学博物館教授)

昨年、ロシア、中国、モンゴルにまたがってトウバ人を取材しました。国境を接しているにも関わらず、手続き上、毎回、北京に戻ってそれぞれ地域に行かなくてはなりません。24日間、数千キロにもおよんだ取材道中では、でこぼこ道を馬の背にゆられ、通りがかりの若者に TENT と車を交換してもらって助けられるなど、さまざまな出来事と出会いがありました。日本ではまだあまり知られていないトウバ人のくらしをご紹介しますとともに、ユーラシア内奥部にも確実に押しよせる現代世界の波についてもお話しします。

●無料観覧日のお知らせ

6月30日(日)は、本館展示を無料で観覧いただけます。ただし自然文化園を通行される場合は、入園料が必要です。

※各イベントについてくわしくはホームページをご覧ください。

※電話でのお問い合わせの受付時間は9時から17時(土日祝を除く)です。

『人類の移動誌』

臨川書店 定価:4,000円

人類はなぜ移動するのか? 考古学、自然人類学、文化人類学、遺伝学、言語学などの最新の研究成果から明らかにした共同研究の成果。

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』

『人類の移動誌』



- メキシコの木彫り アレプリハ
- ウサギ 21,000円
 - チワワ 21,000円
 - セイウチ 21,000円
 - パッファロー 33,600円
 - その他いろいろ 4,200円～

価格はすべて税込